

# 清末小説から 100

2011.1.1

小説目録はたのしい.....樽本照雄 1

《游艇伏尸録》の原作.....渡辺浩司 4

*Robinson Crusoe* 粵語譯本《辜蘇歷程》考略.....姚 達兌10

“儒林医隐”非陆士谔考.....谢 仁敏13

晚清小説作者掃描(貳拾伍).....武 禧16

書家としての吳禱・補遺.....沢本香子19 / 清末小説から13、21

第100号の刊行を喜び、と複数の方から声をかけていただきました。ありがたいことです。本誌既刊号は清末小説研究会ウェブサイトで公開中。本年もよろしくおながいいたしま<sup>S</sup>

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

## 小説目録はたのしい

『清末民初小説版本経眼録』紹介

樽本照雄

小説目録は、使用する側からすれば道具にすぎない。実物にたどりつくための手段のひとつだ。しかし、編集したことのある人ならば理解しているはず。目録には不思議な魅力がある。いちど手を着けると中止するのはむづかしい。

清末民初の小説を調べるとき、関連す

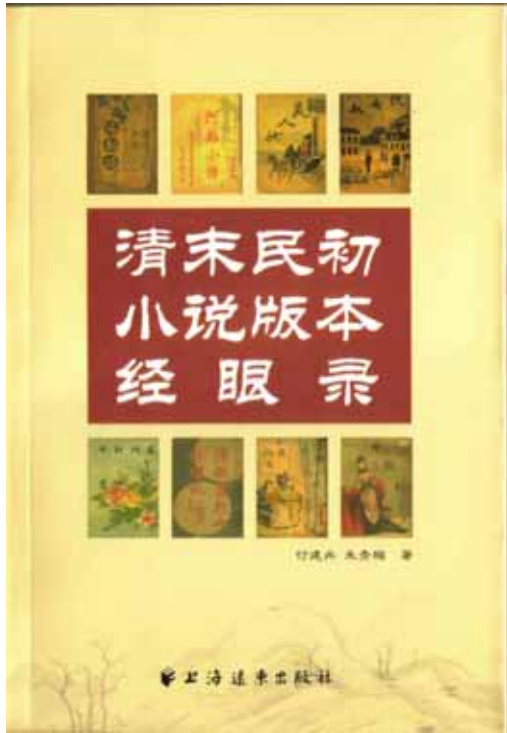
る目録をひとつにまとめたら便利だろう。阿英「晚清小説目」を基礎にして作業をはじめた。はるか昔のことになる。

阿英目録は、彼が手元においた実物によって編集されている。そこが特徴であり長く利用された理由でもある。しいていえば、清末小説に対象を限定していることが不足か。しかし、それはないものねだりにすぎない。

ならば自分で編集するしかないだろう。民国初期の小説までを含めることにした。当時から散在している関連文献を私は収集しつつける。現在にいたるまで『清末民初小説目録』(樽目録と略す)の編集作業を継続しているのは、収録範囲が拡大しているからだ。しかも、絶え間なく新しい資料が発表されている。作業には終わらない。

付建舟、朱秀梅著『清末民初小説版本

1996.10



経眼録』(上海世紀出版股份有限公司遠東出版社2010.6)が出版された。簡単に紹介したい(以下、付朱目録と略す)。

「経眼録」といえば、清末関係では以下のような目録がある。

顧燮光『訳説経眼録』杭州・金佳石好楼1934(王韜、顧燮光等編『近代訳書目』北京図書館出版社2003.10影印本) / 阿英編『晚清文学叢鈔・小説戯曲研究巻』北京・中華書局1960.3上海第1次印刷 / 台湾・文豊出版公司(1989.4)影印本

張純「晚清稀見小説経眼録」『清末小説』第12号1989.12.1

梁淑安、姚柯夫『中国近代伝奇雑劇経眼録』北京・書目文献出版社

また、劉徳隆著『清末小説過眼録』(清末小説研究会2004.1.1 清末小説研究資料叢書5)を思い起こす。

これらに共通するのは、著者たちが自分の眼で確認した書籍を紹介している点だ。

付朱目録は、本文355頁、目次には133種の書名を見ることができる。阿英目録は、1,107種を収録していた。両者の収録数を比較しても意味はない。時代が異なる。編集方針も違う。

付朱目録には、従来には見られなかったひとつの特徴がある。

巻頭に表紙のカラー写真16葉を収録しているばかりではない。それぞれの書物には、本文中に解説とともにその表紙と奥付を写真版で示している。奥付を掲げないばあいは、そのものが存在していないのだろう。いずれにせよ、実物で確認したことが理解できる。そこが「版本経眼録」という所以でもある。

前出133種について、発行年月などの書誌を記し、必要に応じて「序」などを採録掲載する。また、関連の書籍にも言及している箇所がある。私が付朱目録によって樽目録に注記したのは、合計186種だ。数字が異なるのは、付朱目録では、同一書に重版など複数の版本に言及しているからだ。

著者による前言後記の類は書かれていない。該書の内容を見れば説明不用だ、と考えたのかもしれない。ただ、付と朱が作業をどう分担したのかが不明確であ

る。連名にしているところを見ると共著らしい。互いに協力しあったと理解しておく。

写真で見るといくつかの書籍には、所蔵ラベルがはってある。図書館の収蔵品だろうか。それ以外は、著者達が所有しているのかもしれない。

凡例がない。付朱らがいう清末民初の時間区分が不明だ。だが、説明がなくても本文を読めば、1903-1921年あたりになる。

たとえば、表紙にバラの花をあしらった統一意匠の10冊がある。いずれも、世界書局1924年6月初版だ。表紙の中央に書名を置く。

『独鶴小説集』『禹鐘小説集』『紅蕉小説集』『海鳴小説集』『瞻廬小説集』『叔鸞小説集』『卓呆小説集』『西神小説集』『舎我小説集』『枕緑小説集』という。

表紙右上に漢数字がつけてあるから10冊を一組にして発行したものらしい。

1924年も民初に含めるのか、などと私はいわない。どういう書籍を収録するかは著者の判断による。必要な書物であるかないかは、利用者が考えればよい。だから、そういう書物が出版されていることの方が重要だ。

創作と翻訳を区別していない。ただし、見ればわかる。

付朱目録は、単行本に的を絞って収録している。雑誌、新聞掲載の小説には言及しない。それが悪いと言っているのではない。付朱らの編集方針は、書名の「版本経眼録」に示されている。それでいい。

付朱目録の全体をいうと、さきほどの186種(重版を含む)になる。そのうち創作は、50種だ。翻訳は136種、うち商務印書館「説部叢書」49種(「林訳小説叢書」を含む)を数える。

これを見る限り、商務印書館発行の翻訳が多いように思われるかもしれない。しかし、商務印書館の「説部叢書」は、全体では322種にのぼる。だからそれに比較すれば多くはない。私は、付朱目録が不十分だと指摘しているのではない。現在の中国では、「説部叢書」を見るのが困難になっていると思うだけだ。

付朱目録は、商務印書館「説部叢書」を十集系列と四集系列に区別している。正確な記述だ。実物を手にしているからこそ、ふたつの系列に分かれていることが把握できたと考える。

それについての説明がある(9頁)。私が言い直す。十集系列とは、元版の数え方だ。第一集が10編で構成され、十集で合計100編になる。その100編を初集に改組した。各集100編だ。四集第二十二編まで刊行された。付朱らが四集系列と命名しているのがこれに該当する。

小説目録がたのしいと感じるのは、それによって従来の誤りが訂正できた時だ。

付朱目録に見える有益な1例を紹介しよう。

阿英「晚清小説目」(166頁)には、次のような記述がある(傍線省略)。

聶克卡脱偵探案 美訖克著。初編，  
顧明卿<sup>ママ</sup>訳。二編，顧明卿、顧鵬<sup>ママ</sup>拳合  
訳。光緒丁未(1907)一新書局刊。二

冊。

ニック・カーターもの。樽目録を含めて今までの全部の目録が、阿英の記述を踏襲している。それはそうだ。異議をとるための反対資料がない。すなわち、阿英を除いて誰も実物で確認できなかった。

上記引用文の「ママ」と注記した人名に注目して欲しい。

付朱目録の149頁に該書の第二編が、『最新聶克卡脱偵探案(二編)』として採録される。説明には、「正文署上海顔明卿、顧鵬拳合訳」とある。そうすると、阿英目録の「顧明卿」は誤植で、正しくは「顔明卿」だとわかる。さらに奥付写真を見ると「編訳者為顔景賢、校閲者為周仲華」だ。顔つながりで、明卿は景賢ともいうのかと推測する。

実物で確認することの重要性を示している。

小さな疑問をひとつ。

242頁に『脂粉議員』を収録する。説明して、付朱らが見た版本には表紙がない[缺封面]という。しかし、実際には表紙を掲げて「説部叢書」二集第二十五編である。表紙がないはずではないのか。

奥付写真を見ると「中華民國三年六月初版」となっている。これは「林訳小説叢書」の発行年だ。つまり、奥付は「林訳小説叢書」であり、表紙は別の「説部叢書」のものを掲示した。この箇所だけが正確さに欠ける。どうしてそうしたのか。説明があればよかった。小さなキズにすぎない。

[S]

## 《游艇伏尸録》の原作

渡辺浩司

1

《説叢》第一期(宣南編譯社,1917年3月)に《游艇伏尸録》なる短篇小説が掲載された。書名下に、“英國 Fred M.White 原著”、“蕭定安 / 王嘯圃 / 同譯”とある。この原作及び掲載誌が判明したので、本稿で報告する。

原作者 Fred M.White は、Frederick Merrick White で、1859年生、卒年不明\*<sup>1</sup>、70冊以上の著書がある流行作家であった。どこの国の人なのか判然としないが、著書の出版元から見て、イギリス人らしい。訳者については、現在のところ、二人ともこの《説叢》誌にしか見えず、経歴等は未詳である。

原作は『The Long Arm of Bronze』で、掲載誌は『The Strand Magazine』Vol.51-No.301(1916年1月)である。

2

『The Long Arm of Bronze』のあらすじを述べる。

Rupert Gavanni 伯爵は、芸術作品制作



"IT WAS THEN THAT I REACHED FORWARD AND SMOTE HIM WITH THAT HEAVY CLUB."  
the page 113

に勤んでいた。彼はイタリア貴族の末裔で、芸術家であり、Hampsteadの中世風の屋敷で暮らしていた。世界各地の芸術品に囲まれて、彼はブロンズ像に取り組んでいた。敷地内には池があり、夏にはよくカヌーを浮かべ、水上で散策していた。

屋敷には時々伯爵の親しい友人が招かれており、七月初めの今は Scott Ogilvie が滞在していた。彼はインド警察の高官で、休暇で帰省していた。

夜に Ogilvie が居間にいると、伯爵が仕事場から現れた。伯爵は、モデルが来なかったので一日無駄にした、そのモデルに催促のハガキを書いたので散歩ついでに出してくれと言い、Ogilvie にそれを託した。夕食後、二人の話は伯爵の創作の事になり、伯爵は西洋と東洋を融合したものを作りたいと言い、二年前、

Ogilvie と Benares に滞在した時、想像力をかき立てるものがあったと言った。そこで、Ogilvie がなぜ突然去ったのかを尋ねると、伯爵は Serena Ran のことを話した；彼女を愛し、結婚直前まで行ったが、西洋に逃げ帰ってしまった、しかし彼女のことは忘れていない等々。Ogilvie が、伯爵が秋に別の女性と結婚するを持ち出すと、伯爵は、その女性を称賛し「しかし」で言葉を切り、池へ散策に行くと言った。そして、池の真ん中に置かれた Pompeii 出土の Hercules のブロンズ像の話になった。Ogilvie が像の置き場所について理解できないと言うと、伯爵はぴったりの場所だと主張した。その後、伯爵は月夜の中、池に行き、カヌーで像の所まで進み、それを見ながら称賛の言葉を漏らした。

深夜近く、Ogilvie は喫煙室で伯爵が戻って来ないことを気にしていた。そこに庭師の Rogers が声を上げてやって来て窓を叩いた。彼は言った；作業中、池のカヌーが動かないので、誰も乗っていないのかと思い、小船を出してカヌーを引き寄せようとした所、中に主人(伯爵)が死んで横たわっていた。Ogilvie は驚いて、すぐに庭師とカヌーの所へ行き、伯爵の死を確認するとともに、それが暴行殺人だと認め、遺体を室内へ運び、警察に知らせた。

警察の捜査によっても動機は不明であった。夜明け近く、Ogilvie が眠ろうとポケットの物を出した時、伯爵に頼まれたハガキが出てきた。頼まれたことをすっかり忘れていたが、その宛名に何かを

つかんだ。そして翌朝まで眠った。

伯爵の死はロンドンに衝撃をもたらし、捜査が進まないことに市民は不満を持っていた。しかし Ogilvie は推理を組み立てており、警察に相談せずに池の水を抜いた。水抜きの間、Hercules 像を見た、像は棍棒を持ち、Hydra を打たんとするポーズをとっていた。彼は池底を詳しく調べ、鉛を詰めた棍棒と粗い線を数本見つけた。

翌朝、彼は市内に戻り、Stamford Street に行き、貸し部屋を探した。見つけた部屋の主人に条件を言い、他に借主がいるかを尋ねた所、一か月契約で Pantheon Music-hall に出演している団体がおり、彼らは「natives of some kind」だが、静かで邪魔にはならないとのことだった。

次の晩、Ogilvie は Pantheon Music-hall に上演を見に出かけた。彼はある出し物だけを特に関心を持って見た。

翌朝、Ogilvie は Hampstead で伯爵の書類を詳しく調べ、深夜、部屋に帰った。そして、主人にもう一組の借り手の中の Ran Seri という男を呼んでくるよう頼んだ。Ogilvie は三年前にインドでその男を助けたことがあった。

Ran Seri が来ると、Ogilvie は単刀直入に「なぜ伯爵を殺したのか？」と尋ねた。そして、Ogilvie は推理した殺害の過程を話した；Ran Seri と伯爵が愛した Serena Ran は兄妹で、二年前、Ran Seri はインドにおらず、伯爵は知らなかった；Ran Seri は妹を捨てた伯爵を殺害するため、イギリスに渡り、伯爵が制作している像のモデルに採用され、屋敷に自

由に出入りし、伯爵を観察し、計画を練った；伯爵が夜にカヌーを浮かべる習慣を知り、Hercules 像の代わりに自分が立ち、カヌーで近くを通った時に、棍棒で撲殺した。

更に、Ogilvie は、女が男に捨てられるのはよくある等と言い、妹について尋ねると、Ran Seri は、妹がその傷心のために亡くなったことを話した。Ogilvie は同情を示し、事件について更に話した；最初はつまらない犯罪だと思ったが、伯爵から預かった八ガキを見て、事件の性格を理解した；Ran Seri の劇場での出し物、生けるブロンズ像を見て、池の像に結びついた；池底を調べた時、像を置いた跡や凶器の棍棒を見つけた等々。

すると、Ran Seri は、伯爵に復讐せよとの神の命令があったこと、彼の写真一枚から一年かけて見つけたこと等、より詳しい経緯を語った。最後に、神が正義を行なったのだと述べ、ヨーロッパ人から「目には目を、歯に歯を」を学んだ私を非難できますか？と言い、話を終えた。

Ogilvie は立ち上がり、ベルを鳴らした。

解決する側(Ogilvie)の条件が揃いすぎているため、推理色は薄く、犯行の奇抜さを挿絵とともに楽しむ娯楽短篇である。

### 3

中国語訳について述べる。他に訳されていた時の参考にできると思うので、主な固有名詞の対照表を挙げておく。

原文	中国語訳
Ogilvie	歐幾維
Gavanni	葛維尼
Serena	西梨娜
Ran Seri	倫西雷
Hercules	賀鳩拉

書名は、『The Long Arm of Bronze』(ブロンズ像の長い腕)が、『游艇伏尸録』(ボートのうつ伏せ死体事件)となり、内容に基づいてわかりやすく改めている。

内容については、原作どおりにきちんと訳している。ただ、説明のための加筆が散見される。二例示す。まず、Ogilvie から Serena Ran の話を出された時の伯爵の態度を示す場面である。

Gavanni exhaled a mouthful of cigarette smoke thoughtfully.(4頁左)  
(Gavanni は思いにふけてタバコの煙を大きく吐き出した。)

伯爵口銜雪茄。徐徐吸之。俄又夾諸雙指間。從唇際噴出煙氣。縈繚四週。幻成種種物狀。腦筋中苦思冥想。前塵影事。一一湧上心頭。良久謂歐曰：(3頁,句点は原文のまま,コロンは補った,以下同)

(伯爵は葉巻をくわえ、ゆっくりと吸った。さっと指に挟むと、口から煙を吐き出した。(煙は)周囲に漂い、様々に変化した。頭では瞑想を続け、昔の出来事が一つ一つ心に浮かんでいた。しばらくたって、歐に言った：)

次に、最後の場面である。

Ogilvie rose to his feet and rang the bell.(11頁右)

(Ogilvie は立ち上がり、ベルを鳴らした。)

歐幾維立就電話之次。搖鈴通告警署。不旋踵間。倫西雷遂入獄矣。(15頁)

(歐幾維は立って電話の所に進み、ベルを鳴らし警察に連絡した。程なく倫西雷は収監された。)

少し冗長な感じがする程度で誤りとまでは言えない。

誤訳(或は改訳)は少ない。一例挙げる。Ogilvie と伯爵が池の像について話す場面である。

... By the way, I never could quite understand why you erected that bronze statue of Hercules in the centre of your lake. A gem like that unearthed from Pompeii was worthy of a better fate. Why don't you use that statue as a model for the bronze you have in your mind now ? ”

“ There are sculptors who might do so, ” Gavanni said, contemptuously. “ But where would the touch of originality, which is the other word for genius, my friend, come in? I had thought of it only to dismiss the idea

at once. No, the Hercules is best where he is. A great work by a great unknown master, standing in splendid isolation in the centre of four hundred acres of water. What more fitting pedestal could you find? But then, of course, you are not an artist.” (4頁右) (…ところで、どうして君が池の真ん中にあるあの Hercules の銅像を立てているのか僕には全く理解できない。ポンペイから発掘されたあんな貴重品にはもっといい落ち着き場所がふさわしいのに。どうして君は、今、考えている彫刻のモデルにあの像を使わないのか?)

「そうする彫刻家もいるだろう。」 Gavanni は軽蔑して言った。「しかし、我が友よ、天才の別称である個性はどこに現れるのだ? すぐにそんな考えは捨てるしかないと思った。いや、あの Hercules は一番いい場所にいる。偉大なる無名の人による偉大なる作品が、四百エーカーの池の真ん中に堂々と一人で立っている。あれ以上にぴったりした場所をどこに見つけられるのか? でもまあ、もちろん、君は芸術家ではないからな。」)

…但我誠不解。君何以樹一羅馬勇士賀鳩拉之銅象於湖心。大類龐培<sup>ママ</sup> Pompeii 城中掘出之陳屍。狀至森森怖人。君何以必需此物作君雕刻上之標本耶。”

伯爵曰：“凡欲成一種雕刻品。詎可

無物以供揣摩。”言次頗露輕藐狀。復續其詞曰：“君謂彼像醜惡。我亦云然。但初不能以此遽滅其雕刻上之興味。且此像固亦成於名家之手。屹立湖中。亦自有可觀者。惟像體僅浮植石上。初無牢固之座。君謂製座當以何種質料為佳。”旋又改其詞曰：“君固非解人。我此問為多事矣。”

(4-5頁、引用符は補った)

(…ただどうして君がローマの勇士、賀鳩拉の銅像を湖の真ん中に立てているのか僕には全くわからない。ポンペイから発掘された昔の遺体によく似ていて、姿が不気味で怖いものだ。どうして君は彫刻のモデルにこの作品が必要なんだ?)

伯爵は「凡そ彫刻作品を作るのに、何も無い所から考えつくことなどありえない。」言いながら、軽蔑の表情を浮かべ、更に続けた。「君はあの像が醜悪だと言った、僕もそう思う。だが、そのためにあの彫刻への興味がすぐに失われるはずはない。また、この像は名人の手によるものだし、湖の中にそびえ立っているのも見応えがある。ただ像本体が単に石の上に置いているだけで、しっかりした台座が無いんだ。台座にはどんな材料がいいと思うかね?」すぐに言葉を改めて「君は芸術の理解者ではなかった。僕の質問は余計だったね。」)

原作は像の置き場所を話題にしており、後の殺人事件への伏線になっているのだ



が、中国語訳は像の評価と台座の話にしてしまっている。他の部分と比べて、なぜこの個所だけこのような訳になってしまったのか不思議である。もちろん、Hercules は、ローマではなく、ギリシア神話に登場する怪力の英雄である。

4

探偵役の Ogilvie の特徴が描かれず、犯人追求もスムーズなので、現在から見ると、物足りない内容である。ただそうは言っても、『The Strand Magazine』該当号の冒頭を飾っており、掲載当時は読者をつかめる作品だったのである。

中国語訳の掲載誌《説叢》は、第二期までしか確認できず、短命に終わっらしい。故に現在まであまり知られず、掲載作品への言及も無かったようである。その一作品《游艇伏尸録》の原作が、同時期のイギリスの人気雑誌の看板作品だと判明したのは、西洋の流行を取り入れようとする訳者の積極さがうかがえて、面白いと思う。

なお、White 作品の最初の日本語訳は、実物未見であるが、『怪女王』(近代世界快著叢書第十編、竹中浩訳、白水社、刊年不明)らしい。実見できたものでは、『黒い自動車』(近代世界快著叢書第十一編、竹中浩訳、白水社、1920年1月25日)であった\*2。 S

【注】

- 1) 著書(新著)の出版年の下限が1930年なので、恐らくその前後に没したと思われる。
- 2) 森下祐行管理 HP「(海外ミステリ総

合データベース)MISDAS」によると、原作は『The Corner House』(1906年)。

【参考ホームページ(HP)】

William G.Contentto 管理「The Fiction Mags Index」

<http://www.philsp.com/homeville/FMI/0start.htm> (2010年10月5日確認)

Nico van Embden 管理「Crime and Mystery Fiction」

<http://www.xs4all.nl/~embden11/index.html> (2010年10月5日確認)

森下祐行管理「(海外ミステリ総合データベース)MISDAS」

<http://www.ne.jp/asahi/mystery/data/index.htm> (2010年10月5日確認)

[付記]『清末小説から』第100号発行、おめでとうございます！

『清末小説』第33号

試論晚清言情小説的特点 .....	袁 進
『燈臺卒』をめぐる .....	吳 燕
吳禱の漢訳チェーホフ .....	樽本照雄
林訳小説《紅篋記》などの原作(下) .....	渡辺浩司
吟邊燕語留餘韻 .....	李 慶國
林纾与五四新文化派之爭史事編年 .....	張 俊才
刘鉄云の佚詩和几件联語 .....	郭 長海
《消閑報》与連載小説之初起 .....	何 宏玲
《<盛京时报>近代小説簡目》補遺 .....	張 永芳
商務印書館出版的立憲圖書 .....	柳 和城
ほか	

*Robinson Crusoe* 粵語譯本《辜蘇歷程》  
考略

姚 達 兌

英國作家 Daniel Defoe 所著小説 *Robinson Crusoe* 在晚清民初時漢語譯本頗夥。影響最大者，莫過於林紓與曾宗鞏譯《魯濱孫飄流記》，常被訛傳謬引為最早譯本<sup>1</sup>。崔文東君曾於《清末小説通訊》上，撰一文考及此書版本淵源，可謂窮究本末，剴切詳明。近日，僕另發現《辜蘇歷程》一本，乃 *Robinson Crusoe* 一書之粵語譯本。略作補證如下。

《辜蘇歷程》一書，一函二冊，鉛字印刷、雙頁折疊線裝，乃藏於澳門中央圖書館何東分館古籍部（本文所引相片源自澳門中央圖書館何東藏書樓。得其授權，謹致謝忱！）。另知澳大利亞國立圖書館也藏有此一版本。

此書內容乃為 *Robinson Crusoe* 系列第一部 *The Life and Strange Surprising Adventures of Robinson Crusoe*，計有三百五十餘頁，共四十三章，中間配有插圖十數幅。該書紅色封面，中以大字題“辜蘇



《辜蘇歷程》封面

歷程”；左題“羊城真寶堂書局藏板”；右題“光緒二十八年 英國教士英為霖譯。”由該書前序知，原作者 Defoe 被譯為“地科”。題名“辜蘇”者，即為“Crusoe”一詞粵語音譯。“歷程”者，對應原著題名“*The Life and Strange Surprising Adventures*”之意。晚清來華傳教士或譯或著有不少漢語作品，除科技類著作外，人文著作大多是宗教主題。其中有一書名曰《天路歷程》<sup>2</sup>，乃英國傳教士賓為霖（William C. Burns, 1815-1868）譯自 John Bunyan（1628-1688）原著 *The pilgrim's progress*。自該書漢譯後，其漢語方言譯本遂也氾濫。《天路歷程》一書，凡各口

<sup>1</sup> 劉禾即是如此。見 Lydia H. Liu: *Robinson Crusoe's Earthware Pot, Critical Inquirey*, vol. 25, No. 4 (Summer, 1999), p741.

<sup>2</sup>（日）樽本照雄編；賀偉譯《新編增補清末民初小説目録》，濟南：齊魯書社，2002年，頁697。各版本詳介見黎子鵬《〈天路歷程〉漢譯版考察》，載《外語與翻譯》2007年第1期，頁26-40。



第一章

岸之方言皆有，影響極大。諸種方言譯本中，即有廣州惠師禮堂羊城土話版《天路歷程》。由此似可推測《辜蘇歷程》中“歷程”兩字即從此出。然而“歷程”兩字頗有意思。《說文解字》釋“歷，過也”。“程”本義為“稱量穀物”，可引申為路程、過程之義。“歷程”，即為經歷之過程。依 Merriam-Webster Dictionary 解釋，原題“Adventures”對應解為：“1. an undertaking usually involving danger and unknown risks. 2. an exciting or remarkable experience.” Defoe 著重（為利益之）“冒險”義。“Progress”一詞，據同此詞典有“gradual betterment; especially: the progressive development of humankind”一義。Bunyan 原題寓意“臻善臻美”。“歷程”兩字，譯名雖同，原義則異，衍用令人深思。然而，扣緊時世推知，來華傳教士在鴉戰後，其傳教事業已與殖民利

益不可截分。指引靈魂之歷程與尋求利益之冒險，實是一體兩面。

題中“羊城”者，乃廣州俗稱。“真寶堂”，據本地老者稱，原位於廣州沙面一帶，待證。1859 後，沙面劃為英法租界，遂挖湧截界，成一人工島。真寶堂，有作“小書會真寶堂”或“羊城小書會”，另出版有花之安（Ernest Faber, 1839-1899）所著《德國學校論略》（1873）《自西徂東》（1884）《教化議》（1875）以及雲仁氏著《聖教要義》（1894）、俾士氏（Smith, Emma Dickson, 1849-?）譯《曉初訓道》（1876）等書。

“光緒二十八年”，即1902年。崔文東君之文所提“杭州跛少年譯本”為最早，也是1902年出版。同年7月，梁啟超於橫濱《新民叢報》上發有《新小說》雜誌廣告，預告內容有一則：“冒險小說：



第一章末



第十六章

如《魯敏遜漂流記》之流，以激厲國民遠遊冒險精神為主。題未定。”遍查《新小說》雜誌，並無該譯本。1903年《新小說》即遷往上海，由廣智書局出版發行。1902年12月，上海《大陸報》第一期載“冒險小說”題為《魯賓孫漂流記》。據崔君證，《大陸報》主筆為梁啟超弟子秦力山，此版本或為秦氏所譯。兩書名雖有一字之誤（“敏”與“賓”），但若依崔君之說，則“大陸報本”或是原定發於《新小說》。此說須另補證。

“大陸報本”乃是維新黨人所譯無疑；後出之譯本，除林紓譯本外，另有《荒島英雄》一書，乃孔聖會袁妙娟所譯。袁本已湮沒不傳。《辜蘇歷程》一書，與諸本毫無關涉。此書為英國傳教士所譯，從原文譯出。晚清傳教士漢譯諸作，多有賴口岸文人相助潤色修正，方得告成付

梓。英為霖有無口岸文人相助，未得確證。蓋未知英為霖為誰，因而更無法知其是否雇用譯工。遍查諸種名錄，皆無“英為霖”之名。或為其他傳教士之異名，也未可知。或指為“賓為霖”誤植，非是。蓋賓為霖名聲頗響，且其譯著《天路歷程》和《人靈戰紀》等粵語本也較為雅馴。而《辜蘇歷程》中多有誤用之字，如“日頭”一詞皆誤為“熱頭”，因“日”、“熱”粵語音相近。所譯雖用粵語，間雜英語語法。如第三十三章末“好似你共我，起首係唔好人”一句“係唔好人”，依粵語習慣應作“唔係好人”。凡此不贅舉。

綜上，對照原著後，僕以為粵語本為英語原文譯出，只是稍為簡略，而且應無中國文人相助（若有，此人文學修養也必不高），與中國文人譯本分屬不同系統。以

上所提諸譯本因譯本身份立場有異，所譯不同頗多，待另撰文詳述。

S

附原序：

《辜蘇歷程》一書，乃英國先儒名地科所作。平生緒論甚富，遐邇知名。計其書籍，約有二百餘種，人皆以先得觀為快。然究不若愛此書者之尤眾且廣也。蓋是書一出，屢印屢罄。士民老少，群爭購之。迄今垂二百年，暢行諸國。開卷披閱，無不悅目賞心。茲將原文，譯就羊城土話。雖未盡得其詳細，而大旨皆有以顯明。聊備婦孺一觀，了然於目，亦能了然於心。覺人生所閱歷，斯為最奇而最險，實無窮趣味，樂在其中矣。爰筆數詞，敘於簡端。幸毋鄙俚見棄，竊厚望焉。是為序。

(中國中山大學中文系，510275)

『清末小説から』第99号 2010.10.1

『繡像小説』問題2 .....樽本照雄

《老殘遊記》婦女形象及太谷學派

    婦女觀淺析 .....朱 松齡

《法蘭西之魂》の原作 .....渡辺浩司

張坤德是《時務報》福爾摩斯故事的

    唯一中譯者嗎 .....郝 嵐

《冲積期化石》決非新文學史上

    第一部長篇小説 .....王 金城

晚清小説作者掃描(24) .....武 禧

“儒林医隐”非陆士谔考

谢 仁 敏

**摘 要** 《医界镜》作者“儒林医隐”为谁，国内诸家书目、辞典皆云不详；但近年樽本照雄先生和田若虹女士皆认为是陆士谔。笔者对此存疑，现考证其非为青浦陆士谔，而是江阴郁闻尧。

**关键词** 晚清小说 儒林医隐 陆士谔 郁闻尧 考证

晚清知名小说《医界镜》，在当时的文学界和医学界都具有相当的影响。作者署名“儒林医隐”，不过“儒林医隐”到底为谁，国内的《中国通俗小说总目提要》、《中国古代小说总目提要》、《中国古代小说总目》等诸家辞书皆云不详。樽本照雄先生的《新编增补清末民初小说目录》，倒是有这样的著录：

《医界鏡》(衛生小説)，22回，2冊，儒林医隱(陸士谔)。同源祥書莊，光緒34(1908)。

[阿英106][提要1072][大典161]此書據郁聞堯「医界現形記」稍加改易而成[近大418]は医界境<sup>73</sup>とする[歴近430]光緒三十四年(1908)十一月

[系目196][古大949]鉛印本。田若虹が引用している「此書原名《衛生小説》前年印過一千部。某公見之謂其於某医有碍，特与鄙人熟商酌給刊資，将一千部購去，故未曾發行。首次印行一千部」田若虹は衛生小説（又名医界鏡）1906.8とする。<sup>\*1</sup>

这里已经明确指出“儒林医隐”就是陆士谔了。从樽本先生的此处的著录看，他的这一论断引自田若虹女士的考证，由于笔者对这一论断持有不同意见，故以此文求教于两位前辈及其他大方之家，不当之处望指正。

《医界鏡》版权页显示的信息如下：《医界鏡》，上下册，标“卫生小说”，署“著作者：儒林医隐，校阅者：瓶山居士”，印刷者为上海吴记活版部，总发行所为嘉兴同源祥书庄，出版时间为“光绪三十四年十一月出版，光绪三十四年十二月发行”。这里标识《医界鏡》出版于光绪三十四年（1908）年底，但田若虹女士却云该书出版于光绪三十二年（1906）八月<sup>\*2</sup>，其依据可能来自“儒林医隐”置于书首的一段小引：

此书名《卫生小说》，前年已印过一千部。某公见之谓其于某医有碍，特与鄙人熟商酌給刊資。将一千部購去，故未曾發行。某公爰于前年八月下旬用鄙人出名，将缘由登在《中外日报》、《申报》论前各三天。（某公广告：鄙人所著《卫生小说》已印就一千部，因中有未尽善之处，尚欲酌改，暂不发行。如有他人私自印行及改头换

面发行者，定当稟究云云）。是版权仍在鄙人也。今遵某公前年登报之命，已将未尽善及有碍某医之处全行改去，因急于需用，现将版权出售。儒林医隐主人谨志。

从这段小引透露的信息，可知《医界鏡》原名《卫生小说》，前年（即1906年）已印刷完成了一千部，不过正式上市发行前，就被某公全数购去，并借作者之名刊登了一则告白；现经作者本人修改后再次发行，并打算出售版权。可见，出版于1906年的是《卫生小说》而非《医界鏡》。

不过，笔者翻检晚清书目，并未见存《卫生小说》一书。倒是查到了一部名为《医界现形记》的小说，与《医界鏡》有着密切关系。《医界现形记》，内页标“最新卫生小说”，还题有“内容甚佳，阅者有益”，以及“上海商务印书馆代印”等字样。出版时间为光绪三十二年（1906）。作者署名“郁闻尧”。该作品之所以引人注意，是因为它的内容绝大部分跟《医界鏡》相同。校阅结果显示，两书不同之处主要是以下几个方面：其一，《医界现形记》中的主要人物程荷甫、程湘帆、程祖荫、程福、六元芝四人，在《医界鏡》中分别改名为贝仲英、贝文彬、贝祖荫、贝福、六亨兰，其余人名基本保留原样；其二，两部小说都是二十二回，除了第一、二、十五、二十回的四条回目略有不同外，其余十八条回目完全相同（不计上述人名改动后嵌入回目的情况）。其三，《医界鏡》中除了第一回增加对中西药优劣、现状的讨论，第十回增加冯植斋入京为太后看病，第十五回插入瞿逢时误诊医死病人等小片

段外，其余都未作改动。因此，从内容上看，《医界镜》完全是在《医界现形记》的基础上稍加改易而成，其情况跟各家书目提要的相关著录吻合。那么就此看来，“儒林医隐”小引中所云之《卫生小说》，其实指代的就是郁闻尧的这部《医界现形记》了？同时也意味着，当年“用鄙人出名”所登之广告，挂名者应该就是郁闻尧了？

按“儒林医隐”小引提供的线索，笔者查阅了当年的《申报》，果然顺利找到了那则告白。该告白连载三日，时间从光绪三十二年（1906）八月三十日至九月初二日，置于该报论说栏之前，题目赫然就是“郁闻尧广告”，全文如下：

鄙人曾托商务印书馆代印之《卫生小说》四册，业已印成。兹因尚须校改，原本不复出售。倘有将原书改头换面，易名出版者，照书业公所例议罚。新马路梅福里郁氏医室白。

显然，告白的内容与“儒林医隐”小引所云的情况完全吻合，这意味着此则告白中的郁闻尧，其实就是《医界镜·小引》的发布者——“儒林医隐”。这一论断，还从《医界镜》的销售广告中获得进一步证实：

最新卫生小说《医界镜》告白：此书即现形记，为各种小说所未备。描摹尽致，著成善本，以冀医界改良。且又搜罗许多妙方，于消闲之中兼得卫生之益，凡官商学界，不可不看。五彩洋装两册，门售批发从廉。……\*3

该告白的第一句“此书即现形记”，虽未指明具体哪部“现形记”，不过现在已可坐实为《医界现形记》。至此，完全理清了作者、作品之间的关系：所谓的《卫生小说》其实就是署名“郁闻尧”的《医界现形记》，作者当年曾将首版所印之书全部卖给某公，但依然保留版权；两年后，作者对内容稍加改易并取名为《医界镜》，署名“儒林医隐”出版发行。

现在，只剩下最后一个问题：郁闻尧是不是陆士谔？

《医界现形记》的篇首，附有两篇序文，作序者分署“江阴陈道庵”和“虞山玉芝斋主人”，两人都透露了郁闻尧的一些生平信息。其中陈序云：

江阴郁君闻尧，读儒书贡成均，文名噪甚；读医书十年，从名师张聿青。先生临症数年，治病以来，确有主见，审证处方，功效卓著，与世之游移无定凭者相去天渊，固医之精而上者欤。生平著有《时医砭》一书，尚未付梓。今者客寓沪江，悯当世医界颓败，江河日下，思有以挽回之，撰成《医界现形记》四卷，于三十年以来医家之现象瞭如指掌。

张乃修（1844-1905），字聿青，晚清名医，著有《张聿青医案》二十卷，由门下弟子吴文涵等人整理后，于民国七年（1918）出版。该书卷二中，有“复诊由门下郁闻尧代去”、“郁世兄回禀云”等语，表明郁闻尧确为张聿青的弟子；随后，在提到“湿温症”中的“江苏抚军吴医案”



时，整理者吴文涵更是明确指出，“此案已见《医界镜》(又名《卫生小说》)，群相称赏”云云\*4。笔者在《医界镜》第十一回中，果然查到了此则医案，所言症候、药方等文字与《张聿青医案》所载几乎一字不差。由此坐实张门弟子郁闻尧就是《医界镜》的作者。至此，可以断定江阴郁闻尧乃是实有其人，跟青浦陆士谔了无相涉。

鉴于诸家小说辞书对郁闻尧的生平情况多是语焉不详，笔者不妨就手中的资料，试撰其小传，并期望知情者订正完璧。

郁闻尧，字奎章，号儒林医隐，生卒年不详，江苏江阴人。光绪年间贡生，曾师从名医张聿青。后移居上海，于新马路梅福里挂牌行医。其间，加入上海万国红十字会，成为会员；民元后曾任江阴中医学学会会长等职。著有小说《医界现形记》(又名《卫生小说》)四卷，后在此基础上稍加改易，取名为《医界镜》(两册)。另外，还著有《时医砭》一书，未见刊行；与人合编有《鼠疫良方汇编》(一卷)，刊于宣统二年(1910)。

S

注：

- 1) [日]樽本照雄：《新编增补清末民初小说目录》，济南：齐鲁书社，2002年版，第863、864页。
- 2) 田若虹：《陆士谔考证》(湖南长沙之岳麓书社2002年初版，2005年上海三联书店出修订版，此处以三联书店的修订版为准)，第291页。
- 3) (未署名)：“最新卫生小说《医界镜》告白”，载《新闻报》宣统元年(1909)闰二月初四日。

晚清小说作者扫描(贰拾伍)

武 禧

(一三零)

何迴

小说创作：《狮子血》

何迴：河北保定人。其余待考。

(一三一)

过庭

小说创作：《狮子吼》

陈天华(1875-1905)：湖南新化人。原名显宿，字星台，亦字过庭，别号思黄。母早逝，父亲陈善为落第秀才、乡村塾师。十五岁始入蒙学，好学不辍。因家贫曾辍学在乡间做小贩，喜爱小说唱词，常仿其文体作通俗小说或山歌小调。后入资江书院读书，博览二十四史。1899年考入新化求实学堂，深受维新思想影响，倡办不缠

- 4) 张聿青著，吴文涵、郭汇泰等整理：《张聿青医案》，上海：上海科学技术出版社，1963年重印版，第48、73页。按：《张聿青医案》原本刻于1918年，由江苏无锡郭汇泰出资印刷。



足会，成为变法运动的拥护者。1900年春，考入省城岳麓书院，成绩名列前茅。次年转入求实书院。1903初入省城师范馆。是年春，获官费留学日本东京弘文学院师范科。不久，逢沙俄企图侵占东北三省，引发拒俄运动。陈手血书寄示湖南各学堂。湖南巡抚赵尔巽亦为感动，亲临各学堂宣读，并刊登于官报，使湖南全省拒俄运动士气更加高涨。同年，先后撰写《猛回头》和《警世钟》两书，风行于世，影响甚大。次年初，回到长沙，参与组织华兴会，与黄兴等密谋准备长沙起义，事泄未成，又被迫流亡日本，入东京法政大学。此时，陈结识孙中山。1905年中国同盟会在日本东京成立，陈天华为重要发起人之一，在书记部工作，任会章起草员，又任同盟会机关报《民报》编辑，发表《最近政见之评决》、《中国革命史论》等政论和作品，引起强烈反响。1905年12月陈天华在东京参加了抗议日本政府《取缔清、韩留学生规则》的斗争，决心以死来激励国人“共讲爱国”。写绝命书后于东京大森海湾投海自尽，以死报国，时年三十岁。创作小说《狮子吼》。

(一三二)

蜀岗螻叟

小说创作：《官世界》

蜀岗螻叟：真实姓名待考。蜀岗可以代表扬州，估计为扬州人氏。“蜀”，《说文解字》：“蜀，葵中蚕也，从虫。”“螻”，《说文解字》：“尺螻，屈伸虫也。”尺螻蛾的幼虫，在树上，色树皮色，行动时身体一屈一伸地前进。北方称步曲，南方称造桥虫。故本笔名可解为“一个可屈可伸的

扬州老人”。其涵义深刻，与“痛哭生”“伤心人”等笔名内容相同，但更耐人寻味。

(一三三)

山外山人

小说创作：《枯树花》

山外山人：真实姓名待考。有汤贻汾笔名为“山外山人”者，生卒年为1778-1853，与《枯树花》出版年月不符。另《中国通俗小说总目提要》仅记有山外山人著《枯树花》《枯树花续编》。实际还有《枯树花二集》存上海图书馆。

(一三四)

吟梅山人

小说创作：《兰花梦》《支那儿女英雄遗事》

吟梅山人：真实姓名待考。

(一三五)

醉月山人

小说创作：《狐狸缘》《三国因》《海上尘天影》

邹弢(1850-1931)：江苏无锡人。字翰飞，酒丐。号潇湘馆侍者，亦号瘦鹤、司香旧尉，味雪主人、醉月山人，晚号守死楼主。室名三借庐、戾天楼、虚白楼等。1866随父迁居苏州。1875年为诸生，后多次参加科举考试均无建树，约1880旅居上海，为申报馆记室。后又任主笔。出版有《海上寻芳谱》。1888年应山东巡抚张朗斋之请，至淄川矿山任职。是年出版小说《狐狸缘》。1892年与上海风尘女汪瑗相交。二人诗词唱和，感情甚笃，却无力营

金屋。1894年赴湖南作幕，并作《海上尘天影》。在湘11个月，复归海上，汪已从良，不胜感伤。1900年于上海入天主教。1905年至启明女塾任教。又尝在苏州设养心学堂17年。生平嗜酒，因自号邹酒丐。曾为天南遁叟王韬门下士。以真挚性情作文章而不拘绳墨，著述甚丰，有《三借庐赘谈》《戾天楼脍谭》《瓮牖余谈》《万国近政考略》《洋务罪言》等。翻译有《斐洲游记》。小说创作有《海上尘天影》《狐狸缘》、《三国因》等。近年再版之《浇愁集》评价甚高。

讨论：研究者对邹弢并不陌生，介绍其著作甚多，特别是其《海上尘天影》在中国近代小说中有一定影响。但是研究者几乎无人提到他是《狐狸缘》与《三国因》的作者。如孙文光主编《中国近代文学大辞典》“邹弢”条只提《海上尘天影》。而陈玉堂《中国近现代人物名号大词典》中介绍醉月山人即邹弢，但是也不提《狐狸缘》与《三国因》。故提出存疑。

(一三六)

安素

小说创作：《想》

安素：真实姓名待考

(一三七)

南支那老骥氏

小说创作：《新孽镜》《亲鉴》

马仰禹：出生年月、籍贯不详。笔名南支那老骥或南支那老骥氏。1900年包天笑在苏州养育巷冠子桥包叔勤家门口创办“东来书庄”自任经理。后来包天笑常住上海，东来书庄即由马仰禹经营。包天笑

的谱弟梦鹤因痼病卧床不起，就是由马仰禹通知包天笑。创作小说有《新孽镜》《亲鉴》《大人国》等，辑译有《未来战国志》

(一三八)

远庸

小说创作：《哀音》

黄远庸(1884-1915)江西九江人。名为基，笔名远生，早年室名惺惺室。1904年进京赶考，在清王朝最后一次会试中高中进士。但未接受任何官职而留学日本。回国后为北京《亚细亚报》撰稿。曾任参议厅行走兼编译局纂。1911任上海《时报》、《申报》特约通讯员。曾参加进步党。袁世凯称帝，出版沪版《亚细亚报》约其为总撰述，并迫其撰文赞成帝制。其托词赴美，后在美国旧金山被刺杀，至今不知被刺杀的原因。他是中国近代史上第一个专职记者，开创了“通讯”这种新闻文体。周恩来在1918年的日记中有这样的记载：“晚间观黄远生遗稿”，“我昨天从任白涛那里取来黄远生从前的通信看了一遍，觉得他所说的元、二年的光景，于我的将来政治生涯有很大关系。”主要著作为《远生遗著》。著有小说《哀音》。□

書家としての呉禱・補遺

沢本香子

清末の翻訳家として有名な呉禱は、上海にあって書家でも活躍していた。これが、論文「書家としての呉禱」の内容である。

その後いくつかの資料を得た。補遺とする。

その1

許志浩『中国美術社団漫録』(上海書画出版社1994.9)がある(該当部分の複写をいただいた。松村茂樹氏に感謝します)。

該書に「海上書画公会」の項目が掲げられる(9-10頁)。1900年、李叔同が上海で組織し成立したと説明がある。毎週刊行したという『書画報』とは『書画公会報』のことだ。しかし、あげられた参加者のなかには、残念ながら呉禱の名前が見えない。専門書であってもそうなのだ。人名索引にも呉禱は出てこない。翻訳家の呉禱は著名である。だが、書家としての呉禱は許志浩の手からこぼれている。

こう書いたからといって私は該書を低

く評価しているわけではない。たとえば、楊逸『海上墨林』(台湾・文史哲出版社1988.1再版)、王家葵『近代印壇点将録』(済南・山東書画出版社2008.3)、『近代書林品藻録』(同社2009.4)などいずれも大部な書籍だ。しかし、呉禱の名前はない。

つまり、書の世界でも呉禱の存在は普通に知られていなかったといたいのだ。呉禱は、翻訳家としてだけが著名だった。

そういう状況があったからこそ、王中秀、茅子良、陳輝編著『近現代金石書画家潤例』(上海画報出版社2004.7 / 2005.9第2次印刷)に呉禱が収録されているのが珍しい。これが呉禱研究の突破口となった。

王中秀らの著作は、従来とは異なった記述をしている。新しい指摘ができたのは、当時の新聞広告を丹念に調査した成果だ。原資料から事実を掘り起こす努力をした。私も新聞広告を調べたことがある。しかし、膨大な広告を前にすれば、焦点を絞ったうえでなければ読み続けるための体力がつかない。ましてや、呉禱が書家であるなどと想像もしたことはない。いくら彼の潤例が掲載されているのが事実だとはいえ、目がその方面に向かわなかったのもしかたがない。逆にいえば、潤例広告のある呉禱が今までなぜ注目されなかったのか、そちらの方が不思議に思える。後知恵であることを承知のうえで言っている。

その2

于建華『名家扇書扇画漫説』(上海世紀出版股份有限公司、学林出版社2008.1)が



ある(次の俞子夷論文とともに、唐新梅氏からご教示いただいた。感謝します)。

該書に収録された「清末民国翻譯家吳禱書名久遍内外」に注目する。

著者は、2004年7月2日に上海で、吳禱が書いた扇面を競り落としたという。書の実物を入手しているのが貴重だ。

于建華は、資料をさがして吳禱の潤例4則を見つけた。

『中外日報』1900.3.28<sup>ママ</sup>

「天涯芳草館主吳禱贈字」王中秀ら76頁

『笑林報』1910.5.29

「天涯芳草館免資作為江侍御留紀念」同上88頁

『申報』1921.10.19

「海内書家吳廬中先生隸真草潤例」同上103頁

『申報』1925.5.2

「海内書家[書法名家]吳廬中先生篆隸真草潤例」同上165頁

いくつか符号をつけた。「ママ」とした3月28日は「23日」の誤り。「×」は紙面にないことを意味する。

以上の4例はいずれも王中秀らの著作

に掲げられている(参考までに頁数を示した)。私もマイクロフィルムでそれぞれを確認した。だから、『中外日報』の広告は3月23日が正しいことを知っている。なぜ于建華が上のように書き誤っているのか理由がわからない。たぶん誰にでもある誤記なのだろう。

重要なのは、それらの書き誤りではない。くりかえせば、吳禱の書を実物で所蔵していることだ。該書から引用して掲げる。私は、于建華の紹介によって始めて吳禱の書を写真で見ることができた。その方が大事であることはいうまでもない。

### その3

吳禱(丹初)は、音楽教師でもあった。

俞子夷「回憶蔡元培先生和草創時的光復会」(『文史資料選輯』第77輯1981.8/日本影印)がある。俞は、蔡元培と行動を共にしたことがあった。当事者の回想だから参考になる。私が必要だと思う部分を要約して紹介する。

俞子夷は、1901年に南洋公学に入学した。俞のことばによれば、南洋公学の教育目標は、清朝に忠実な洋務人材を作るところにあった(蛇足ながらひとつ。俞が「清朝に忠実な」とつけ加えてそのように説明するのは、たぶん執筆時期(1961年6月の表示がある)が関係しているのだろう。教員学生の全員が思想までそうであったというわけでもあるまい。だいいち蔡元培が同校で教えていた。南洋公学は、後の上海交通大学である。現在であれば俞子夷はそのようには書かないだろう)。当時の

南洋公学において、孔子を崇拜し清王朝を敬うように日常の行事が組まれていたともいう。南洋公学の学生が授業ボイコットをしたとき(1902年11月)、学校側から派遣されてきたのが蔡元培だった。

学生の全員が南洋公学を退学した。蔡元培も辞職する。蔡は、同志と中国教育会を組織し愛国女校も創設した。退学した学生の一部と蔡元培は相談し、中国教育会の援助のもとに愛国学社を組織するよう準備する。学社が成立すると、経費は人からの支援を受け、教師と意気投合した學員(学生と称したくなかった)は新しい学問を学んだ。1902年秋から1903年夏に集結した人々は、急速に変化した。曖昧な愛国から排満革命に変わったと愈は説明する。内部対立があり、1903年の蘇報事件で蔡元培は青島に避難する。翌年、日露戦争が始まる。

愈子夷を愛国女学によんだのは蔡元培だった。愈は蔡に命じられて毒薬と爆弾の研究製造をしている(9-11頁)。そればかりではない。蔡元培は催眠術にも興味を示した。蔡の言葉によると、催眠術は暗殺の道具として使うことができるという(12頁)。すべてが革命活動に結びついていた。

この愛国女学において、呉禱は呉丹初の名前で出てくる。愈子夷の説明は、こうだ。

女学堂の休暇中に男性が入り出すのは近所の注目を集めやすい。そこで入り口に「休日音楽研究会」と紙を貼りだして隠れ蓑にした。湯

(爾和)はオルガンを演奏し歌うことができたし、音楽教師の呉丹初が近くに住んでいたのでよく来校し、昆曲の冊子を取りだして私たちに教え、「收拾起大地山河一担装」などを学んだのだった。12頁

呉禱(丹初)についてここでいわれている音楽とは、中国の伝統演劇のものだった。呉禱は、愛国学社で歴史、地理の教科を担当していたことは知られている。それに加えて伝統音楽だから幅が広い。

呉禱は、書家、翻訳家、さらには教師でもあった。

#### その4

曾季肅「愛国女学校史資料」(上海市政协文史資料委員会編『上海文史資料存稿彙編』9教科文衛 上海古籍出版社2001.12)がある。

愛国学社の関係者として蔡元培、呉稚暉、章炳麟、蔣維喬、何海樵、何山漁らの名前をあげている(314頁)。しかし、呉丹初に言及していない。愈子夷の文章を読んだあとだから少し気になった。[S]

#### 清末小説から

野間信幸氏より資料の提供を受けました。感謝します。

姜 栄剛 義和団事件：晚清“小説界革命”の触発点 『文学遺産』2010年第4期2010.7.15

康 保成 19世紀晚期西方人扮演的中国戲劇 晚清華人海外觀劇研究之一 『文学遺産』2010年第4

期2010.7.15

- 付建舟、朱秀梅 『清末民初小説版本経眼録』上海世紀出版股份有限公司遠東出版社2010.6
- 徐立煜 『清末新聞、出版案件研究(1900-1911) 以“蘇報案”為中心』上海世紀出版股份有限公司、上海古籍出版社2010.4
- 倪斯霆 他在“五四”爆發前夕被北京大学開除 中国現代文壇第一公案真相揭秘 『旧人旧事旧小説』上海世紀出版股份有限公司遠東出版社2010.3
- 柳和城 《兒童教育画》様本巡覽 『出版史料』2010年第3期(新総第35期) 2010.9.25
- 韓振剛 清末民初教科書知見概述(上) 『出版史料』2010年第3期(新総第35期) 2010.9.25
- 祝均宙 李伯元重要佚文新發現 『出版史料』2010年第3期(新総第35期) 2010.9.25
- 黎子鵬 《天路歷程》漢訳版本考察 『外語与翻譯』2007年第1期(総第52期) 2007.3
- 永井崇弘 W.C.バーンズと漢訳 『天路歷程』について 『福井大学教育地域科学紀要(人文科学国語・国文学・中国学編)』58号2007.12.14
- 馬俊山 演説与中国話劇之發生考論 『中国現代文学研究叢刊』2010年第4期(総第135期) 2010.7.15
- 鄭意長 『近代翻譯思想的演進』天津古籍出版社2010.6
- 『中国文学研究』第14輯 2010.4  
中国文学創作理論の近現代轉型  
.....劉再華
- 近代演説与伝教士 .....袁進  
現代“小説創作談”文体(文類)の濫觴  
關於中国近代小説家及其作品的  
“自序”性文字的研究.....朱文華  
家族痛史の小説化 詹熙《花柳深情  
伝》の個案分析  
.....(美)魏愛蓮著、黄飛立訳  
有情的歴史：“庚子衢州教案”の四種文  
学叙述文本 .....段懷清  
声音・報刊・小説 論晚清小説在下層  
社会的伝播 .....杜春燕  
晚清翻新小説創作情況考証.....吳沢泉  
清末優秀長篇《黄繡球》及其作者頤瑣考  
.....范紫江  
現代教育的創立与“南開新劇”の興盛  
清末民初直隸文学實現現代轉型之  
一例 .....張俊才  
清末民初初刻の時調唱本.....李秋菊  
清末日訳小説之“德”“情”取捨  
政治小説与硯友社系小説  
.....李艷麗  
日本明治大正時期的中国近代文学研究文  
献 .....錢振民
- 『明清小説研究』2010年第3期(総第97  
期) 2010発行月日不記
- 中華民族的一段屈辱与反抗史 論晚清  
華工題材の紀実小説.....朱恒夫  
《洪秀全演義》史料来源補考...紀德君  
《林蘭香》中の民俗文化.....楊萍